

BR 350, 430

STIHL



2 - 23 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	運転準備.....	6
4	スロットルケーブルの調整.....	10
5	ハーネスの取付け.....	10
6	燃料.....	10
7	給油.....	11
8	始動前の注意事項.....	12
9	エンジンの始動と停止.....	13
10	作業中の注意事項.....	15
11	エアフィルター交換.....	15
12	キャブレターの調整.....	15
13	スパークプラグ.....	16
14	エンジンの動作.....	17
15	機械の保管.....	17
16	整備表.....	18
17	磨耗の低減と損傷の回避.....	18
18	主要構成部品.....	19
19	技術仕様.....	20
20	整備と修理.....	21
21	廃棄.....	21
22	EC 適合証明書.....	22
23	UKCA 適合宣言.....	22

1 はじめに

1.1 シンボル マークについて

機械に表示されているシンボル マークの意味は、
本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジン オイルの混合燃料



手動燃料パージャーポンプの操作

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



敬告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



パワーツールを使用する時は、特別な安全上の注意事項を遵守してください。



初めて使用する前に取扱説明書をお読みください。取扱説明書は、必要に応じて参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を遵守しないと、重傷または致命傷さえも負うことがあります。

現地の安全規制、基準、条例をすべて遵守してください。

このモデルを初めて使用する人は：サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作方法を教わるか、使用法に関する専門研修に参加してください。

未成年者には絶対に本製品を使用させないでください。

作業エリアに見物人(特に子供)や動物を近づけないでください。

パワーツールを使用していないときは、他人に危険が及ばない場所に置いてください。無断で使用されないよう機械を固定してください。

第三者の負傷やその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与したり、譲渡したりする場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。パワーツールの使用者が本取扱説明書の内容を理解しているか確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国や地域の規則によって特定の時間帯に制限されている場合があります。

構成部品が損傷している場合は、パワーツールを使用しないでください。

パワーツールの清掃に高压洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流でパワーツールの部品が損傷するおそれがあります。

2.1 アクセサリーおよび交換部品

STIHL 社が本パワーツールに使用することを明確に承認したか、同等の仕様に基づいた部品とアクセサリだけを使用してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリの使用をお勧めしています。そうした純正部品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本機を改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

2.2 身体的条件

本パワーツールの使用者は、十分に休息をとり、身体的、精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、パワーツールの使用前にかかりつけ医に相談してください。

ペースメーカーを着用している方のみ該当する注意点：本パワーツールのイグニッションシステムは、微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康面でのリスクを低減するため、STIHL 社ではペースメーカー着用者には、かかりつけ医またはペースメーカーの製造元に相談してからパワーツールを使用することをお勧めしています。

視力を低下させたり、動作や判断を鈍らせたりするおそれがある物（薬物、アルコール）を服用した状態では、パワーツールを使用しないでください。

2.3 用途

ブローワーは、庭、スポーツスタジアム、駐車場、道路等に散在する葉、草、紙等の異物を噴気で掃除する目的用に設計されています。森林の小道を掃除する目的にも適しています。

噴気で危険物を掃除しないでください。

事故が発生し、機械が損傷する危険が増するため、本機を本来の目的以外には使用しないでください。事故が起きたり、製品が損傷したりするおそれがあるため、製品には絶対にいかなる改造も行わないでください。

2.4 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。作業用のコートではなく、身体にぴったりしたオーバーオールと上着を組み合わせた安全作業服を着用してください。



緩い引き紐、レース、リボン、スカーフ、ネクタイ、装身具等の機械側面や下部の吸気口に吸い込まれるおそれがある物は身に付けしないでください。機械に吸い込まれないよう、長髪は結び、まとめてください。

靴底が滑らず、頑強な作りの靴を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard (欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが快適にぴったりとフィットしていることを確認してください。

イヤープロテクター（耳栓やイヤーマフ）を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服と防護装備を取り揃えております。

2.5 パワーツールの運搬

必ずエンジンを切ってください。

車両輸送：

- 倒れたり、燃料が漏れ出したり、損傷したりしないよう、パワーツールを適切に固定してください。

2.6 燃料の給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - 燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。

必ずパワーツールを背中から地面に降ろしてから給油してください。必ず本機を地面に立てた状態で給油してください。

燃料が噴き出さないようタンク内の高圧を徐々に抜くように、燃料キャップは慎重に開けてください。

給油は換気の良い場所で行ってください。燃料が本機にこぼれた場合は必ず拭き取ってください - 衣服に付いた場合は直ちに着替えてください。



漏れがないか点検します。火傷により重傷または致命傷を負う危険を低減するために、漏れを修理するまではエンジンの始動や運転を行わないでください。

スクリュー式燃料キャップ



給油後は、スクリュー式燃料キャップをできるだけしっかりと閉めてください。

それにより、機械の振動によって燃料タンクキャップが緩むか外れ、燃料が漏れ出す危険を低減できます。

2.7 始動前

パワーツールが正しく組み立てられ、正常な状態になっているか点検します - 本取扱説明書の関連項目を参照してください。

- 燃料システムに漏れがないか点検します。特にタンクキャップ、ホース接続部、手動燃料ポンプ (装着モデルのみ) 等の目視が可能な部品に注意してください。漏れや損傷がある場合は、エンジンを始動しないでください - **火災が起きるおそれがあります**。サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- スロットルトリガーはスムーズに作動し、放すとアイドル位置に戻らなければなりません。
- 正常な調整レバーは、容易に **STOP** または **0** に移動できなければなりません。
- ブロワーチューブは、適切に取り付ける必要があります。
- パワーツールを安全に操作するために、ハンドルは乾いた清潔な状態 - オイルや汚れのない状態 - に保ちます。
- スパークプラグターミナルが確実に差し込まれているか点検します - 緩んでいると放電が起こり、漏れた混合気に引火し、**火災が生じるおそれがあります**。
- 操作部と安全装置は絶対に改造しないでください。
- ブロワーハウジングの状態を確認します。
- ハーネスストラップおよびバックパックの状態を確認します - ストラップに損傷または摩耗がある場合は交換してください。

ブロワーハウジングに摩耗 (亀裂、傷、切り欠き) が生じていると、異物が飛散してケガをする危険が高まる場合があります。ブロワーハウジング

が損傷したときは、サービス店にご相談ください - STIHL 社では、STIHL サービス店にお問い合わせいただくことをお勧めしております。

事故が生じる危険を低減するために、パワーツールは安全に操作できる状態のときだけ使用してください。

緊急時：腰ベルトの留め具を外し、肩掛けベルトを緩め、本機を背中から下ろす動作を迅速にできるよう練習してください。

2.8 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

本パワーツールは、一人で操作するように設計されています。作業場所には、始動時であっても第三者を入れないでください。

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。

パワーツールを平坦な地面に置き、足場が安定していることを確認し、パワーツールをしっかりと保持します。

エンジンが始動するとすぐに、細かい異物 (石等) が操作者の方向に吹き付けられることがあります。

2.9 使用中

危険が差し迫っているときや緊急時は、調整レバーを **STOP** または **0** に動かし、速やかにエンジン切ってください。



飛散物によりケガをしないよう、作業者以外が半径 15m 以内に立ち入らないようにしてください。

物的損害が生じる危険を低減するために、他の物体 (車両、窓) から上記の距離を維持してください。



絶対にブロワーの吹き出し口を人や動物に向けしないでください。ブロワーから小さな物体が高速で飛散する危険があります - **ケガをする危険があります**。

ブロワーを使用した (空地や庭の) 清掃中は、小動物に害を及ぼさないよう注意してください。

作動させたまま絶対に本機から離れないでください。

滑りやすい場所 - 濡れた地面、雪や氷で覆われた面、傾斜地や凹凸のある面 - では、特に注意してください。

障害物に注意：廃棄物、切り株、根、溝等の**つまずきそうな障害物**に注意してください。

はしごや他の不安定な足場上では、絶対に作業しないでください。

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声（叫び声、警笛等）が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

日中に十分な視界のある場所で、冷静かつ慎重に作業を行ってください。他人に危険が及ばないよう注意を怠らないでください。

事故が生じる危険を低減するために、疲労が蓄積しないように、適切な時期に休憩をとってください。



エンジン運転中は機械から**有毒な排気ガス**が発生します。排気ガスは無色無臭で、未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重傷または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

事故が生じる危険を低減するために、吐き気、頭痛、視覚障害（視野狭窄等）、聴覚障害、めまい、注意散漫の症状が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。これらの症状は、作業エリアに極めて高濃度の排気ガスが存在する場合にも現れることがあります。

火災の危険性がありますので、作業中および機械の近くでは喫煙は避けてください。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがある点にご注意ください。

塵埃の発生量が非常に多い場合、必ず防塵マスクを着用してください。

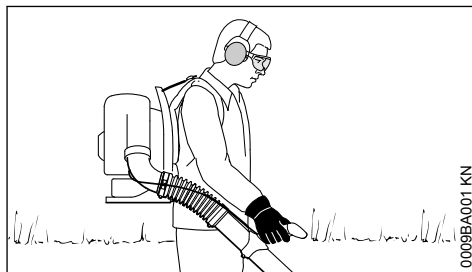
機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

作業完了後は、可燃物のない平らな面に本機を置きます。**火災の危険を低減するために、燃えやすい物（木片、木皮、枯草、燃料等）の近くに本機を置かないでください。**

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった（強い衝撃が加わるか、落下した）場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください（「作業開始前」を参照）。特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が正常に作動しているか確認してください。お使いのパワーツールに損傷がある場合は、作業

を続けしないでください。不確かな場合は、サービス店にお問い合わせください。

2.10 ブロワーの使用



本機は背負い式です。コントロールハンドルを右手で握ってブロワーチューブを保持し、操作します。

作業時はゆっくりと前進し、常にノズル吹き出し口に注意を払い、後ずさりはしないでください - **つまずくおそれがあります。**

必ずエンジンを切ってから本機を背中から降ろしてください。

2.11 作業方法

清掃時間を短縮するために、清掃作業を開始する前に、熊手や箒でゴミを除去しやすくしておきます。

- 必要に応じて、掃除する範囲の表面に水を撒き、埃が立ちすぎないようにします。
- 見物人（特に子ども）、ペット、開いている窓、洗車したばかりの自動車の方向にゴミを吹付けないようにしてください。それらの状況では、特に注意してください。
- 吹き寄せたゴミは、ゴミ箱に捨てます - 隣人の敷地に吹き出したりしないでください。
- 本機は、他の人に迷惑がかかることのある早朝、深夜、昼食休憩時間などを避け、道理に合った時間帯にご使用ください。地域の休憩間隔に関する規制を順守してください。
- 作業実施に必要な最低限のエンジン回転数で、ブロワーをご使用ください。
- 作業開始前にお使いのブロワーの状態を点検します。特にマフラー、エアー インテークおよびエアー フィルターに注意してください。

2.12 振動

パワーツールを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 常に手を温めておく
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質(症状：指がよく冷たくなる、しびれ)。
- 低い外気温。
- 握む力の強さ(強く握りしめると、血行が低下します)。

機械を規則的に長時間使用したり、該当する症状(指のしびれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら(指が疼くなど)、医師にご相談ください。

2.13 整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して、不明な方はスチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するために、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。- 例外：キャブレター及びアイドリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態で、スターターを作動しないでください。火花を抑制できずに**火災が発生する可能性があります**。

火気の近くで、本機を整備したり、保管しないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグだけを使用してください(「技術仕様」の項を参照)。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、火傷しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状況に左右されます - 定期的に防振部品を点検してください。

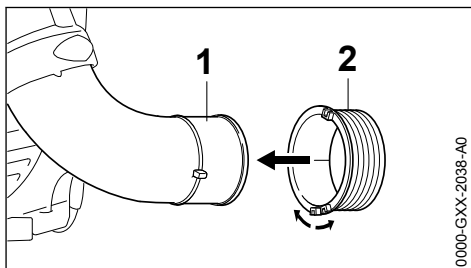
問題を解消しようとする前に、エンジンを停止してください。

3 運転準備

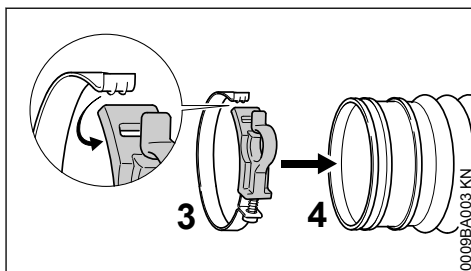
コンビネーションレンチおよびドライバーは、同梱のアクセサリバッグに含まれています。

3.1 BR 350 ブロワーチューブ

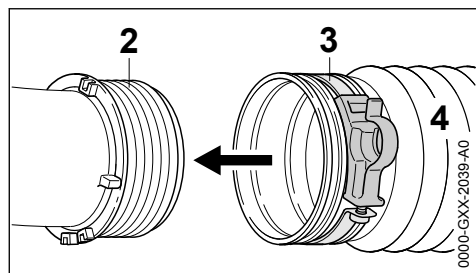
蛇腹ホースのエルボーへの取り付け



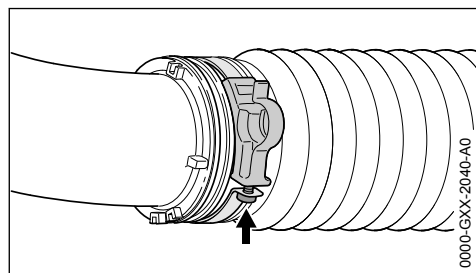
- ▶ スリッピングリング (2) を緩めてから、エルボー (1) に押し込みます。



- ▶ ホースクランプ (3) を開き、蛇腹ホース (4) に取り付けます。
- ▶ ホースクランプ (3) を閉じます - タブをくぼみにかみ合わせます。

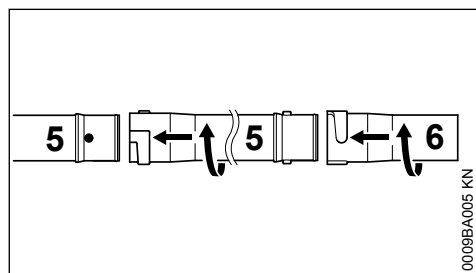


- ▶ 蛇腹ホース (4) をスリップリング (2) にかぶせ、止まるまで押し込みます。
- ▶ ホースクランプ (3) を図示されているように位置決めします。



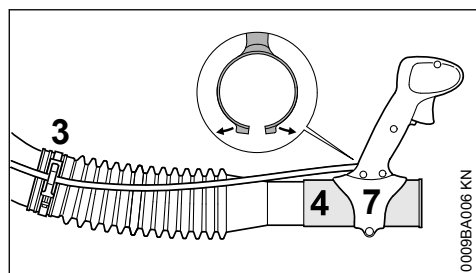
- ▶ スクリュー (矢印) を締め付けます。

ブローチューブとノズルの取り付け



- ▶ ブローチューブ (5) とノズル (6) を組み立てます。

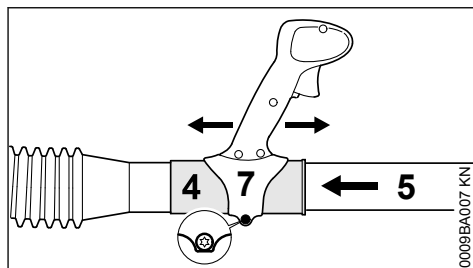
コントロールハンドルの取り付け



- ▶ コントロールハンドル (7) のクランプの端を引き離し、蛇腹ホースのスタブ (4) に押し込みます。
- ▶ スロットルケーブルをホースクランプ (3) のリテーナーに取り付けます。

コントロールハンドルの調節

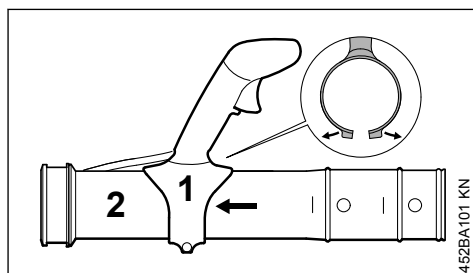
- ▶ 機械を背負い、ハーネスを調整します - 「ハーネスの取り付け」を参照してください。



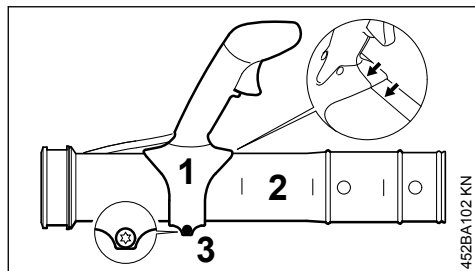
- ▶ ブローチューブ (5) を蛇腹ホースのスタブ (4) の中に止まるまで押し込みます。
- ▶ コントロールハンドル (7) をチューブに沿って移動させ、最も使いやすい位置に合わせます。
- ▶ コントロールハンドル (7) のスクリューを締め付けます。

3.2 BR 430 ブローチューブ

コントロールハンドルの取り付け



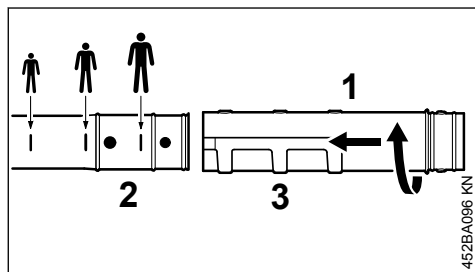
- ▶ 2 分割構造のクランプの両部分を引き離します。
- ▶ コントロールハンドル (1) をブローチューブ (2) に取り付けます。



452BA102 KN

- ▶ コントロールハンドル (1) の位置をブローチューブの継ぎ目に合わせます (図を参照)。
- ▶ コントロールハンドル (1) をスクリュー (3) で仮留めし、ブローチューブ (2) 上で移動が可能な状態にします。

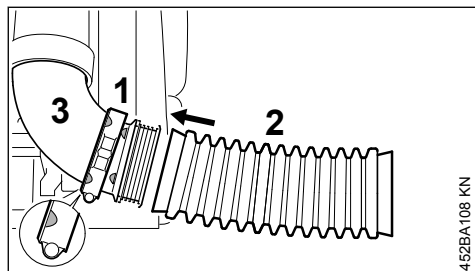
ブローチューブの取り付け



452BA096 KN

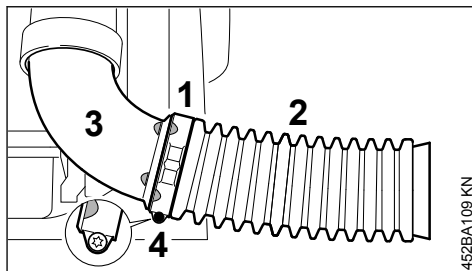
- ▶ 身長と手の長さに応じて、ブローチューブ (1) をブローチューブ (2) 上の適切なマークまで押します。
- ▶ ブローチューブ (1) を矢印の方向に回して、適切なスロット (3) にかみ合わせます。

ホースクランプと蛇腹ホースの取り付け



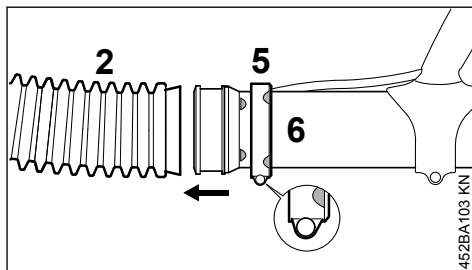
452BA108 KN

- ▶ ホースクランプ (1) (スロットルケーブルのリタイナー付き) を押してエルボー (3) にかぶせます - 位置マークを左側に向けてください。
- ▶ 蛇腹ホース (2) を押してエルボー (3) にかぶせます。



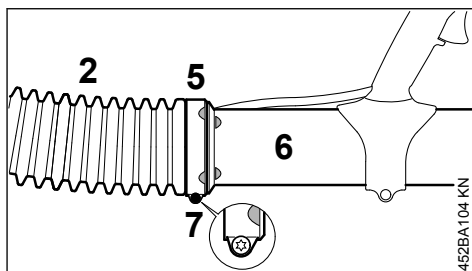
452BA109 KN

- ▶ ホースクランプ (1) を押して蛇腹ホース (2) にかぶせます。
- ▶ ホースクランプ (1) とエルボー (3) の位置マークを合わせます - スクリュー用のくぼみを下側に向けてください。
- ▶ ホースクランプ (1) をスクリュー (4) で固定します。



452BA103 KN

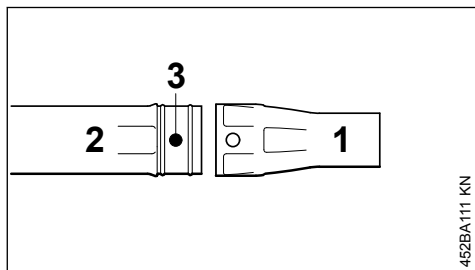
- ▶ ホースクランプ (5) (スロットルケーブルのリタイナーなし) をエルボー (6) に押し込みます - 位置マークを右側に向けてください。
- ▶ ブローチューブ (6) を蛇腹ホース (2) の中に押し込みます。



452BA104 KN

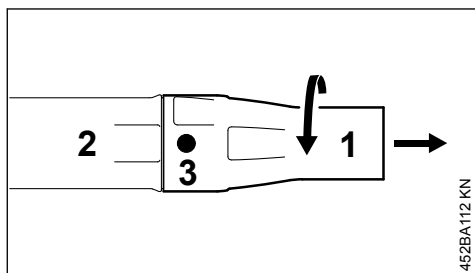
- ▶ ホースクランプ (5) を押して蛇腹ホース (2) にかぶせます。
- ▶ ホースクランプ (5) とブローチューブ (6) を図の位置に合わせます。
- ▶ ホースクランプ (5) をスクリュー (7) で固定します。

ノズルの取り付け



- ▶ ノズル (1) を押してブローチューブ (2) にかぶせ、突起部 (3) にかみ合わせます。

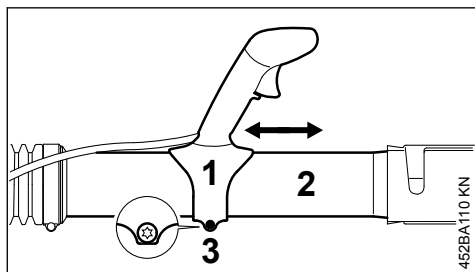
ノズルの取り外し



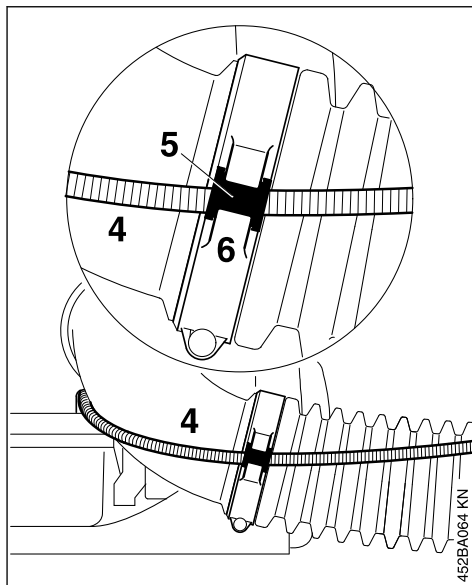
- ▶ 突起部 (3) が隠れるまでノズル (1) を矢印の方向に回します。
- ▶ ノズル (1) をブローチューブ (2) から引き抜きます。

コントロールハンドルの調節

- ▶ 機械を背負い、ハーネスを調整します - 「ハーネスの取り付け」を参照してください。

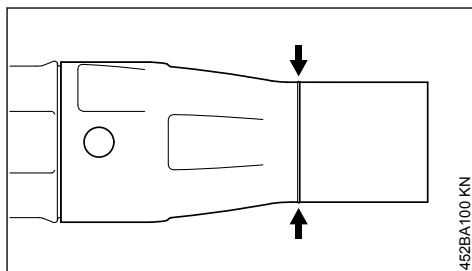


- ▶ コントロールハンドル (1) をブローチューブ (2) に沿って移動させ、最も使いやすい位置に合わせます。
- ▶ コントロールハンドル (1) をスクリー (3) で固定します。



- ▶ スロットルケーブル (4) をスリーブ (5) に通してリテーナー (6) にかみ合わせます。

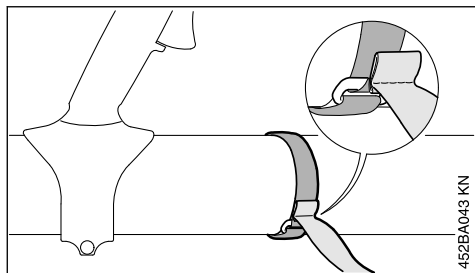
ノズルの磨耗マーク



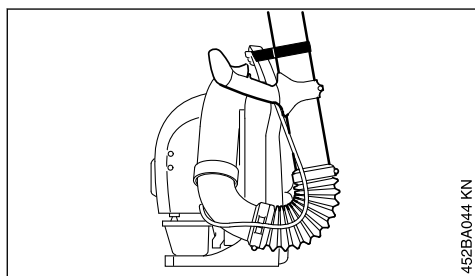
ノズルの前端は、使用中に地面と摩擦接触して磨耗します。ノズルには通常使用による磨耗は避けられません。磨耗マークに達したときは、交換する必要があります。

運搬用ストラップの取り付け

本機の保管および運搬の場合：



- ▶ ブローチューブにマジックテープを取り付けます。フラップをバックルに通して引きまします。

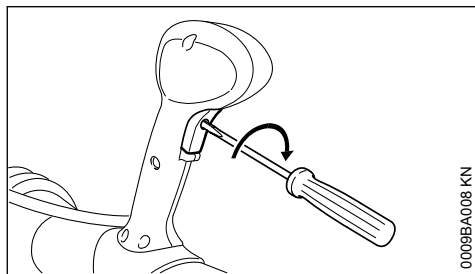


- ▶ ブローチューブをバックプレートのハンドルに固定します。

4 スロットルケーブルの調整

本機の組み立ておよび長期間の運転後に、スロットルケーブルの調整が必要になる場合があります。

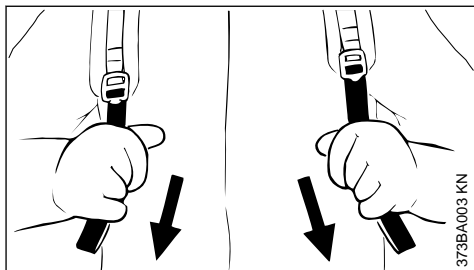
本機が完全に適正に組み立てられた後に、スロットルケーブルを調整してください。



- ▶ スロットルトリガーをフルスロットル位置で、止まるまで開きます。
- ▶ スロットルトリガーのスクリューを、最初にごたえを感じるまで慎重に矢印の方向に回します。その後、さらに1回転回します。

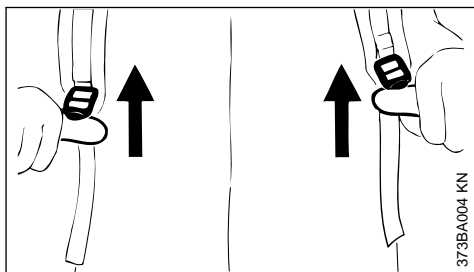
5 ハーネスの取付け

5.1 ハーネスの調整



- ▶ ストラップを下に引いてハーネスを締める

5.2 ハーネスの緩み



- ▶ スライディングアジャスタのロックを持ち上げます。
- ▶ ハーネスを調整して、バックプレートが背中にぴったりと合い、安定するようにします

6 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

6.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

6.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

6.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

6.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

6.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

6.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

6.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

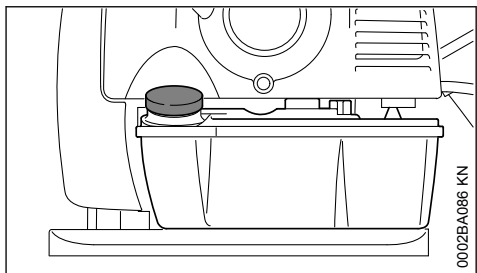
- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

7 給油

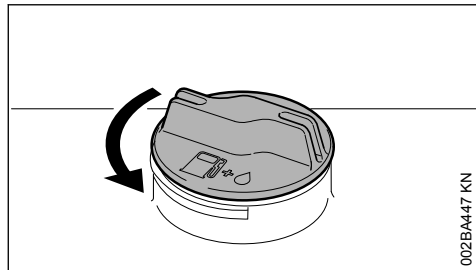


7.1 準備



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、フィルターキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ タンクの注入口が上を向くように本機を置いてください。

7.2 スクリュータイプのタンク キャップを開ける

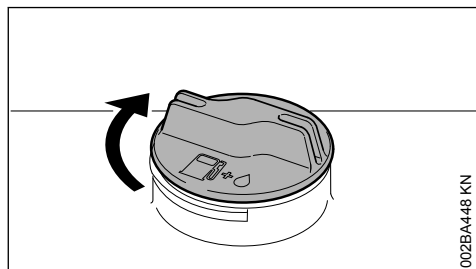


- ▶ キャップを反時計回りに、キャップをタンクの開口部から外すことができるまで回します。
- ▶ キャップを外します。

7.3 燃料の補填

給油の際には燃料をこぼしたり、あふれさせないでください。当社ではスチール フィラー ノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めします。

7.4 スクリュータイプのタンク キャップを閉める



- ▶ 開口部にキャップを置きます。
- ▶ キャップを時計回りに、止まるまで回します。手でできる限りしっかりと締め付けます。

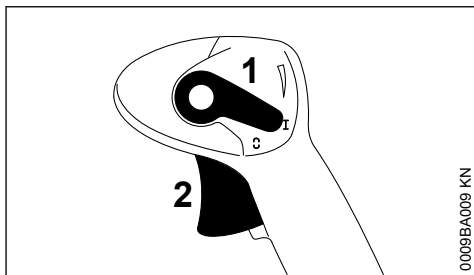
8 始動前の注意事項

注記

エンジンを停止し、始動する前にバックプレートとパワーヘッドの間にある吸気口が詰まっていないかチェックし、必要場合は掃除します。

8.1 調整レバーの機能

パワーツールには、さまざまなタイプのコントロールハンドルが装着されています。



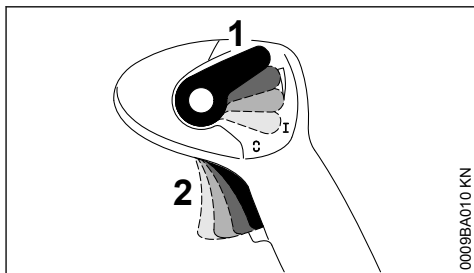
運転位置 I

エンジンが作動中または始動可能です。スロットルトリガー(2)は、任意の位置に動かすことができます。

エンジン停止 0

点火が中断され、エンジンが停止します。調整レバー (1) は、この位置ではロックされません。レバーは、運転位置 I に戻ります。改めて点火が可能になります。

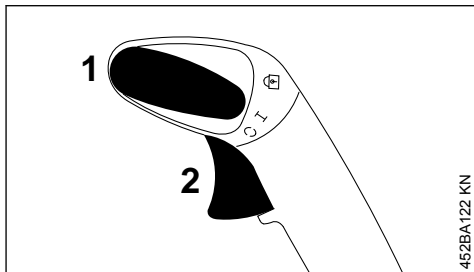
固定スロットル



スロットルトリガー (2) は、任意の位置でロックできます：

ロックの解除方法：

- ▶ 調整レバー(1) を運転位置 I に戻します。



運転位置 I

エンジンが作動中または始動可能です。スロットトリガー(2)は、任意の位置に動かすことができます。

エンジン停止 0

点火が中断され、エンジンが停止します。調整レバー(1)は、この位置ではロックされません。レバーは、運転位置 I に戻ります。改め点火が可能になります。

ロック位置 (㊦)

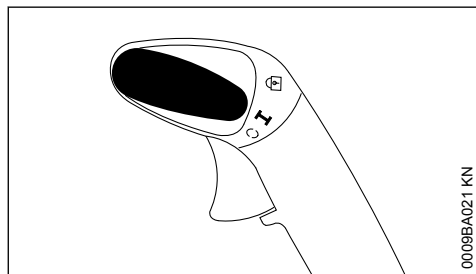
スロットトリガー(2)は、3つの位置でロックできます：1/3 スロットル、2/3 スロットル、およびフルスロットル。ロックを解除するためには、調整レバー(1)を通常運転位置 I に戻します。

9 エンジンの始動と停止**9.1 エンジンの始動**

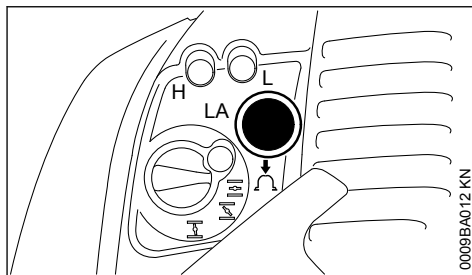
- ▶ 安全注意事項を守ってください。

注記

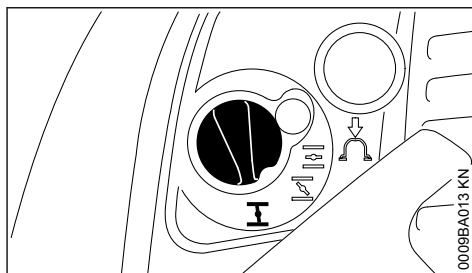
ほこりを吸引しないように、表面が清潔でほこりのない場所で本機を始動します。



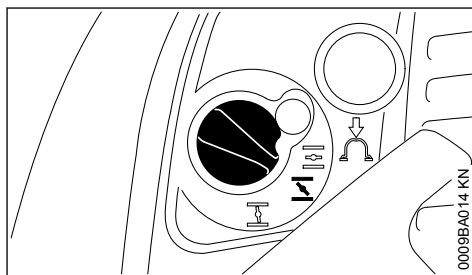
- ▶ 調整レバーは、I にある必要があります



- ▶ 燃料ポンプを最低 8 回押してください。ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

9.1.1 冷機エンジン (冷機スタート)

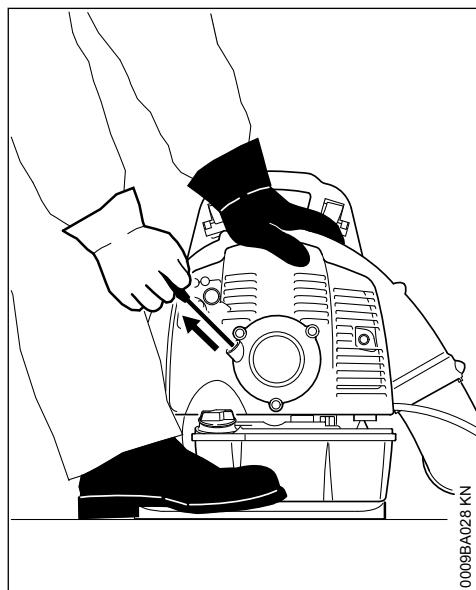
- ▶ チョークノブを押し込んで、I の位置に回します。

9.1.2 暖機エンジン (暖機スタート)

- ▶ チョークノブを押し込んで、II の位置に回します。

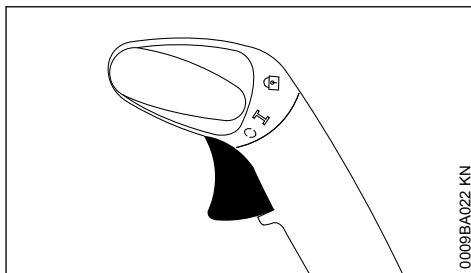
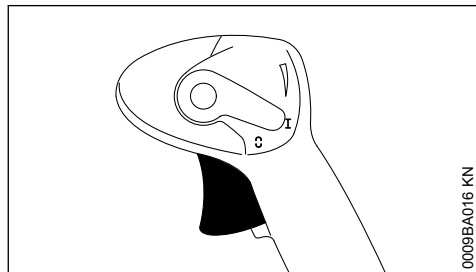
エンジンの始動後、暖まりきっていない場合もこの位置に移動します。

9.1.3 始動操作

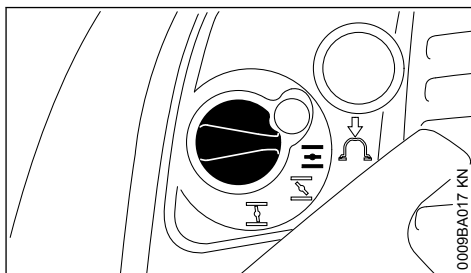


- ▶ 本機を地面にしっかりと置き、第三者がノズル吐出口の方向にいないことを確認します。
- ▶ 安定した足場を保ちます。本機のハウジングを左手でしっかり握り、片足をベースプレートに乗せて滑らないようにします。
- ▶ 右手でスターターグリップをゆっくり引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良くグリップを引っ張ります。スターターロープは最後まで引っ張らないでください - **切れることがあります。**
- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むとスターターロープは正しく巻き込まれます。
- ▶ エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

9.2 エンジンがかかったらすぐに



- ▶ スロットルトリガーを操作します。

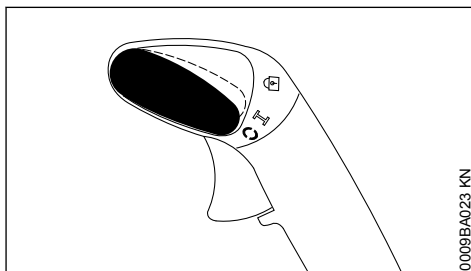
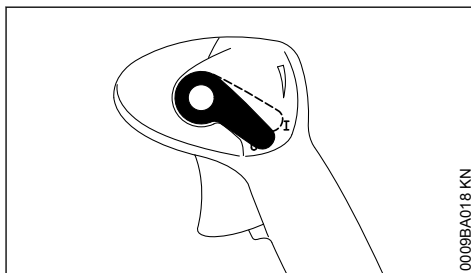


- ▶ スロットルトリガーを操作すると、チョークノブが自動的に運転位置 Ⅲ に戻ります。

9.2.1 外気温度が極めて低いとき

- ▶ スロットルトリガーを少し開いてしばらくエンジン回転を上げ、エンジンを暖めます。

9.3 エンジンの停止



- ▶ 調整レバーを **○** の方向に動かします - エンジンが停止して、調整レバーが運転位置に戻ります。

9.4 始動に関するその他の注意事項

エンジンが冷機スタート位置 **Ⅰ** または加速状態で適切に作動しない

- ▶ チョークノブを **Ⅱ** に移動して、エンジンがかかるまで始動動作を繰り返します。

エンジンが暖機スタート位置 **Ⅲ** で適切に作動しない

- ▶ チョークノブを **Ⅰ** に移動して、エンジンがかかるまで始動動作を繰り返します。

エンジンがかからない場合

- ▶ すべてが正しくセットされていることを確認します。
- ▶ 燃料タンク内を確認して、必要な場合給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

燃料タンクが完全に空になった場合

- ▶ 再給油したら、手動燃料ポンプに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ エンジン温度に合わせてチョークノブをセットします。
- ▶ エンジンを始動します。

10 作業中の注意事項

10.1 作業中

長時間のフル スロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。これにより、エンジンに組み込まれている部品（イグニッションやキャブレター）を熱から守ることができます。

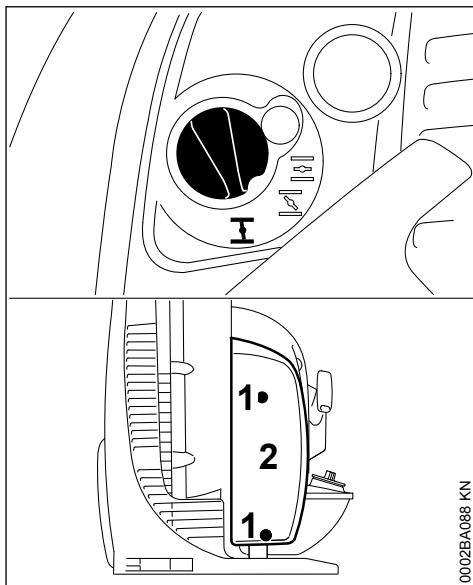
10.2 作業後

短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。次の使用時まで、火気のない乾燥した状態で保管します。長期間にわたって使用しない場合は、「機械の保管」を参照してください。

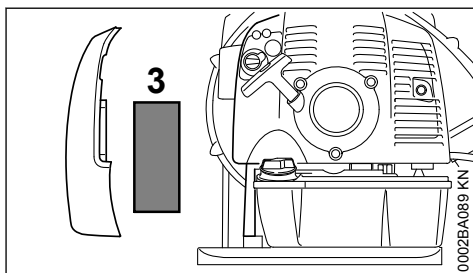
11 エアフィルターの交換

エアフィルターが汚れるとエンジン出力が低下し、燃焼効率が低下します。また始動が困難になります。

11.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ チョーク ノブを **Ⅰ** の位置に動かします。
- ▶ スクリュー (1) を緩めます。
- ▶ フィルター カバー (2) を取り外します。



- ▶ フィルター エレメント (3) を取り外します。
- ▶ 汚れたまたは損傷したフィルターを交換します。
- ▶ 新しいフィルターをフィルター ハウジングに取り付けます。
- ▶ フィルター カバーを取り付けます。
- ▶ スクリューを取り付け、しっかりと締め付けます。

12 キャブレターの調整

12.1 基本的情報

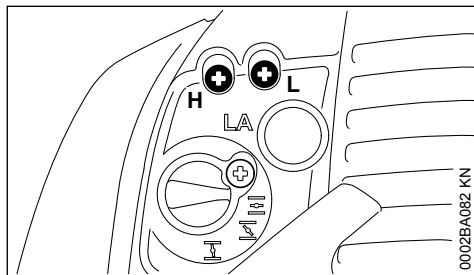
キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

この設定で、ほとんどの運転状況で最適な混合気が得られます。

12.2 準備

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エア フィルターを点検し、必要な場合は掃除あるいは新品と交換します。
- ▶ スロットル ケーブルが正しく調整されていることを確認して、必要に応じて再調整します - 「スロットル ケーブルの調整」の章を参照してください。
- ▶ マフラーのスパーク アレスター スクリーン (すべてのモデルには該当しない、国によって異なる) を点検し、必要な場合は掃除あるいは新品と交換します。

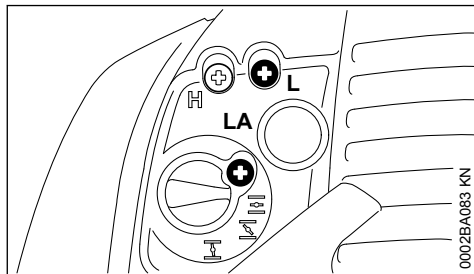
12.3 標準設定



- ▶ 高速調整スクリュー (H) を反時計方向に止まるまで回します (最高でも 3/4 回転)。
- ▶ 低速調整スクリュー (L) を時計方向に、止まるまで回します。その後、3/4 回転戻します。

12.4 アイドリング回転の調整

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンをかけて暖めます。



12.4.1 アイドリング回転中にエンジンが停止する

- ▶ アイドリング スピード調整スクリュー (LA) をエンジンが滑らかに動作するまで時計回りにゆっくり回します。

12.4.2 アイドリングスピード調整スクリューの設定が正しいにもかかわらずアイドルリングが不安定で、加速が悪い

アイドルリング設定が薄すぎます：

- ▶ 低速調整スクリュー (L) を、エンジンが作動して滑らかに加速するようになるまで、反時計回りに止まるまでの範囲で回します。

12.4.3 アイドリングが不安定な場合は

アイドルリング設定が濃すぎます：

- ▶ 低速調整スクリュー (L) を、エンジンがスムーズに作動して滑らかに加速するようになるまで、時計回りに止まるまでの範囲で回します。

低速調整スクリュー (L) を調整する度に、大抵の場合は、アイドルリングスピード調整スクリュー (LA) を設定変更する必要があります。

12.5 高地で作業する場合の微調整

エンジン性能が充分でない場合は、わずかな調整が必要になる場合があります：

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンを暖機運転します。
- ▶ 高速調整スクリュー (H) を僅かに時計回り (薄くする) に回します - 止まるまでの範囲で回します。

注記

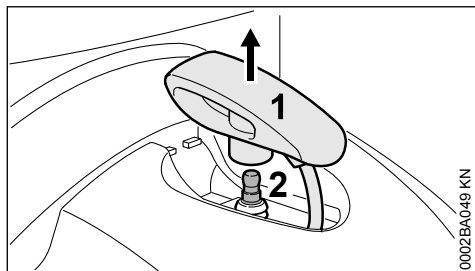
高地から降りてきた後は、キャブレターを標準設定にリセットします。

設定を薄くしすぎると、潤滑オイルの不足と過熱により、エンジンが破損する危険があります。

13 スパーク プラグ

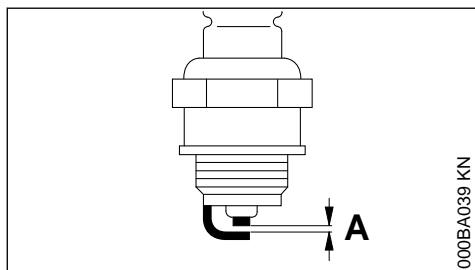
- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドルリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

13.1 スパークプラグの取り外し



- ▶ スパークプラグターミナル(1)を垂直に抜き取ります。
- ▶ スパークプラグ(2)を緩めます。

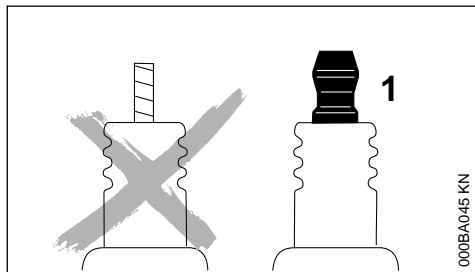
13.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



アダプターナット(1)が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

13.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグを座位にねじ込み、ターミナルをしっかりと押し込んで取り付けます。

14 エンジンの動作

エアフィルターを掃除してキャブレターを適切に調整しても、エンジンの動作が不十分な場合は、マフラーが原因の可能性があります。

マフラーが汚れていないか(カーボンで詰まる)、スチールサービス店で点検してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチールサービス店のみに依頼されることをお勧めします。

15 機械の保管

機械を約 30 日以上使用しない場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合: 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ エンジンを始動し、エンジンが停止するまでアイドリングを続けます。
- ▶ 特にシリンダーフィンやエアフィルターに注意して、機械を丁寧に清掃してください。
- ▶ 機械を乾燥した安全な場所に保管してください。(子供など)承認されていない人が使用しないように確保してください。

16 整備表

以下の整備周期は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合（ほこりが極端に多い場所など）は、指定された間隔をそれに応じて短縮してください。		毎 日	毎 週	毎 月	毎 3 月	毎 6 月	毎 12 カ 月	毎 年	毎 2 年	毎 3 年	毎 5 年	毎 7 年	毎 10 年
機械本体	目視検査(状態と漏れ)	X		X									
	掃除		X										
コントロールハンドル	作動検査	X		X									
エアフィルター	掃除							X					
	交換								X				
手動燃料ポンプ	点検	X											
	修理はサービス店 ¹⁾ に依頼してください。								X				
燃料タンク内のピックアップボディ	点検はサービス店 ¹⁾ に依頼してください。							X					
	交換はサービス店 ¹⁾ に依頼してください。						X				X		
燃料タンク	掃除				X								
キャブレター	アイドリング調整の点検	X		X									
	アイドリング調整										X		
スパークプラグ	電極ギャップの調整							X					
	100 運転時間毎に交換												
冷却風吸入部	目視検査		X										
	掃除										X		
すべてのスクリューとナット(調整スクリューを除く)	締め直し										X		
防振エレメント	点検	X						X			X		
	交換はサービス店 ¹⁾ に依頼してください。								X				
ブロワーの吸気ロスクリーン	点検	X		X									
	掃除										X		
スロットルケーブル	調整										X		
安全ラベル	交換								X				

¹⁾STIHL 社では、STIHL 正規サービス店の利用をお勧めしています。

17 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わず

に使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- － スチールが許可していない製品の改造。
- － 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリを使用。
- － 指定外の目的に当製品を使用。
- － スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。

- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

17.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

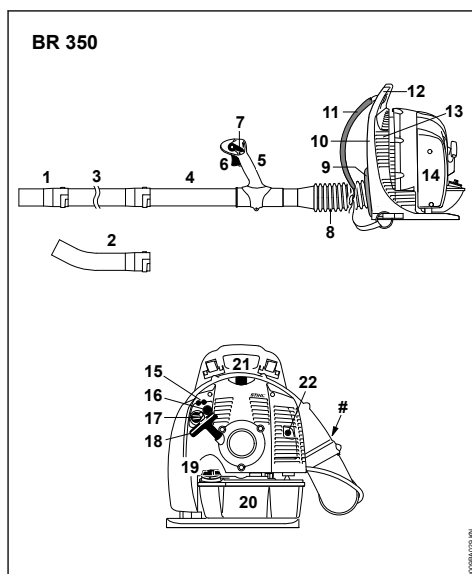
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エアー フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エアー吸入スリット、シリンダー フィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

17.2 摩耗部品

パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の摩耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- フィルター (エアー フィルター、燃料フィルター)
- リワインド スターター
- スパーク プラグ
- 防振システムのダンパー エレメント

18 主要構成部品



- 1 ストレートノズル¹⁾
- 2 カーブノズル¹⁾
- 3 ブロワーチューブ
- 4 ブロワーチューブ
- 5 コントロールハンドル
- 6 スロットルトリガー
- 7 調整レバー
- 8 蛇腹ホース
- 9 バックパッド
- 10 バックプレート
- 11 ハーネス
- 12 ハンドル
- 13 インテークスクリーン
- 14 フィルターカバー
- 15 キャブレター調整スクリュー
- 16 手動燃料ポンプ
- 17 チョークノブ
- 18 スターターグリップ
- 19 タンクキャップ
- 20 燃料タンク
- 21 スパークプラグターミナル

22 マフラー

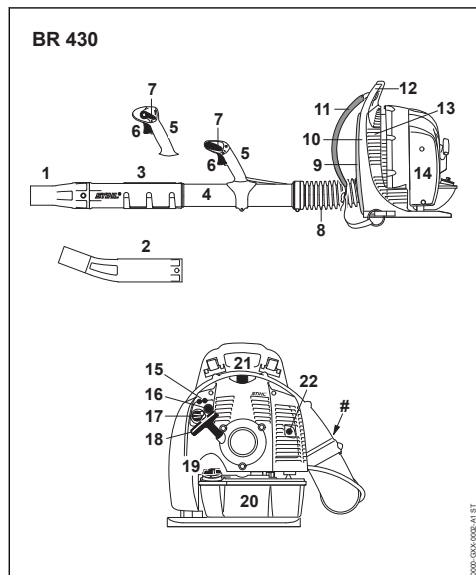
機械番号

20 燃料タンク

21 スパークプラグターミナル

22 マフラー

機械番号



- 1 ストレートノズル¹⁾
- 2 カーブノズル¹⁾
- 3 ブローチューブ
- 4 ブローチューブ
- 5 コントロールハンドル
- 6 スロットルトリガー
- 7 調整レバー
- 8 蛇腹ホース
- 9 バックパッド
- 10 バックプレート
- 11 ハーネス
- 12 ハンドル
- 13 インテークスクリーン
- 14 フィルターカバー
- 15 キャブレター調整スクリュー
- 16 手動燃料ポンプ
- 17 チョークノブ
- 18 スターターグリップ
- 19 タンクキャップ

19 技術仕様

19.1 エンジン

単気筒 2 ストロークエンジン

排気量:	63.3 cm ³
シリンダー径:	48 mm
ピストンストローク:	35 mm
アイドリング回転数:	3000 rpm
ISO 7293 に準拠した出力:	
BR 350:	2.1 kW (2.8 PS)
BR 430:	2.9 kW (3.9 PS)

19.2 イグニッションシステム

エレクトロニックマグネットイグニッション

スパークプラグ (雑音防
止): NGK BPMR 7 A,
BOSCH WSR 6 F

電極ギャップ: 0.5 mm

19.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量: 1700 cm³ (1.7 l)

19.4 ブロー性能

19.4.1 BR 350

吹き出し力	17 N
風速:	75 m/s
風量:	740 m ³ /h
最大風速:	90 m/s
最大風量 (ブローチューブ非装 着時):	1150 m ³ /h

19.4.2 BR 430

吹き出し力	26 N
風速:	82 m/s
風量:	850 m ³ /h
最大風速:	98 m/s
最大風量 (ブローチューブ非装 着時):	1300 m ³ /h

19.5 重量

燃料なし:	
BR 350:	10.1 kg
BR 430:	10.3 kg

¹⁾ すべての機種には該当せず、国により異なります

19.6 音響値・振動値

音響値・振動値は、アイドリング回転数と最大定格回転数の比率 1 : 6 で測定したものです。

振動に関する事業者への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

19.7 DIN EN 15503:2010 に準拠した音圧レベル L_{peq}

BR 350:	98 dB(A)
BR 430:	101 dB(A)

19.8 DIN EN 15503:2010 に準拠した音響出力レベル L_{weq}

BR 350:	106 dB(A)
BR 430:	108 dB(A)

19.9 DIN EN 15503:2010 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

19.9.1 標準仕様

	右ハンドル
BR 350:	3.9 m/s ²
BR 430:	2.5 m/s ²

19.9.2 バイクハンドル装着仕様

	左ハンドル	右ハンドル
BR 350:	2.5 m/s ²	2.5 m/s ²
BR 430:	2.5 m/s ²	2.5 m/s ²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

19.10 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

19.11 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。


20 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

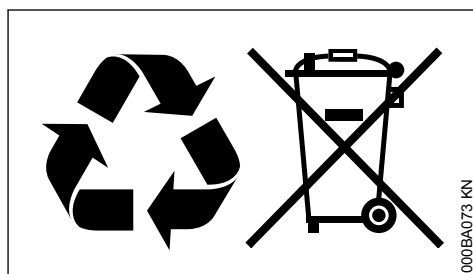
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

21 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

22 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

名称:	ブロワー
メーカー名:	STIHL
型式:	BR 350 BR 430
シリーズ番号:	4244
排気量:	63.3 cm ³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、製造の時点で有効であった次の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 12100、EN 15503、EN 55012、
EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の補遺条項 V 規定、および ISO 11094 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

BR 350:	105 dB(A)
BR 430:	107 dB(A)

音響出力レベル保証値

BR 350:	107 dB(A)
BR 430:	109 dB(A)

技術資料の保管場所:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2021 年 7 月 15 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

製品規制・認可部長



23 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

名称:	ブロワー
メーカー名:	STIHL
型式:	BR 350 BR 430
シリーズ番号:	4244
排気量:	63.3 cm ³

英国規則 The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012、Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008、Electromagnetic Compatibility Regulations 2016、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の関連する条項に適合しており、製造の時点で有効であった次の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 12100、EN 15503、EN 55012、
EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001、Schedule 8V の英国規定、および ISO 11094 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

BR 350:	105 dB(A)
BR 430:	107 dB(A)

音響出力レベル保証値

BR 350:	107 dB(A)
BR 430:	109 dB(A)

技術資料の保管場所:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2021 年 7 月 15 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Dr. Jürgen Hoffmann

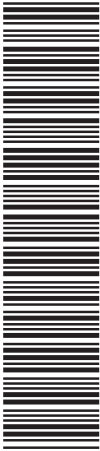
製品規制・認可部長



www.stihl.com



0458-456-4321-E



0458-456-4321-E